

記事タイトル

2025年最新！認定こども園保育士の給料は？初任給・年収のリアル

1. 2025年、保育士の給料は今後上がる！

- ・国の施策で給料アップが期待できる
- ・保育士給料はいつから上がるの？

2. 認定こども園給料表を大公開

- ・認定こども園保育士の給料平均はいくら？
- ・認定こども園保育士の初任給
- ・認定こども園保育士の年収はいくら？最新データ公開
- ・認定こども園の園長年収や給料事情

3. 認定こども園とは？簡単に解説

- ・認定こども園と保育園の違い
- ・認定こども園ってどんなところ？主な特徴
- ・認定こども園は4種類！管轄も知っておこう

4. 認定こども園と保育園、給料差はどのくらい？

- ・認定こども園・保育園・幼稚園の給料の差
- ・なぜ給料差がある？その理由

5. 認定こども園と保育園、働くならどっちがいい？

- ・認定こども園で働くメリット・デメリット
 - ・メリット1:教育と保育のプロになれる
 - ・メリット2:0歳～5歳まで成長を見守れる
 - ・メリット3:処遇改善で給料アップが期待できる
 - ・デメリット1:業務範囲が広く覚えることが多い
 - ・デメリット2:給料は保育園とあまり変わらない
 - ・デメリット3:さまざまな保護者対応が必要
- ・認定こども園に向いている人・向いてない人とは？
 - ・認定こども園に向いている人
 - ・認定こども園に向いていない人

6. 認定こども園の給料・進学情報は「〇〇」！

保育士や幼稚園教諭を目指す学生のみなさん、「認定こども園ってお給料どうなんだろう？」と気になりませんか？

実は、認定こども園で働く保育士の給料は、着実にアップしています！

この記事では、認定こども園の最新の給料情報や、認定こども園ならではの魅力をご紹介します。

「夢に近づく進学先は？」と進路に悩む今だからこそ、安心できるヒントを届けます。

進路選びには、保育の専門就職サイト「〇〇」もぜひ活用してみてくださいね！

1. 2025年、保育士の給料は今後上がる！

2025年、認定こども園で働く保育士の給料は少しずつ上がっています。国の強力な政策支援や、いつから上がるのかについて見ていきましょう。

- ・国の施策で給料アップが期待できる
- ・保育士給料はいつから上がるの？

一つずつ解説します。

・国の施策で給料アップが期待できる

2013年、国によって「処遇改善加算制度」がスタートしました。これにより、保育士の給料はステップを踏みながら少しずつ上がってきています。

2024年度には、保育士の給与を10.7%引き上げる改善策も実施されました！

国税庁の2023年「民間給与実態統計調査」によると、給与所得者の平均年収は約460万円。一方、保育士の年収は約407万円とされています。

日本の平均年収と比べると53万円ほど差がありますね。

ただ2024年度調査では、私立認定こども園の保育教諭の給与が前回よりもおよそ5.2万円アップ。保育士にかかる人件費比率も69.5%から72.0%に上がっています。

つまり「保育士の給与をもっと上げよう！」と、流れが本格化してきたところ。順調に進むことで、今後も保育士の給料アップが期待できそうです！

・保育士給料はいつから上がるの？

給料アップの施策はもう始まっています。

総務省統計局の調査では、2023年の保育士年収は約397万円ですが、2024年には10万円増の407万円です。

これは、処遇改善等加算の拡充など、国の施策の効果が確実に現れている証拠。

さらに、2025年度からは保育事業所に対して「職員給与の実態報告」が義務化される見込みです。

こうして給料の透明性が高まっていくことで、園同士の健全な競争も促されます。今後も継続的な給料アップが予想されますね。

2. 認定こども園給料表を大公開

「認定こども園の給料は平均でいくらですか?」と、気になる人も多いでしょう。ここでは、最新の給料事情をご紹介します。

- ・認定こども園保育士の給料平均はいくら?
- ・認定こども園保育士の初任給
- ・認定こども園保育士の年収はいくら? 最新データ公開
- ・認定こども園の園長年収や給料事情

順に解説します。

・認定こども園保育士の給料平均はいくら?

「認定こども園の職員の給与は?」この疑問に、最新調査をもとにお答えしましょう。

- 私立認定こども園の職員: 月額およそ33.2万円
- 公立認定こども園の職員: 月額およそ34.6万円
(※いずれもフルタイム・常勤職員の平均)

公立のほうがやや高いのは、地方公務員として勤務するため「公務員給与規定」にもとづいた給与体系が適用されるからです。

さらに、認定こども園で働く保育士の平均勤続年数は約9.8年。経験年数に応じて給料が上がるしくみも整っていますよ。

・認定こども園保育士の初任給

新卒で認定こども園に就職した場合の初任給は、大学卒の場合、約22万円~23万円スタートのケースがよく見られます。

多くの園で、経験年数とともに段階的に昇給する制度の整備も進んでいます。

たとえば、5年目頃には月給26万円前後になるケースもあります。初任給から換算すると、約3~4万円のアップが見込まれますね!

・認定こども園保育士の年収はいくら? 最新データ公開

「認定こども園の先生の年収は?」と気になる方も多いでしょう。

2024年賃金構造基本統計調査によると、保育士の平均年収は約407万円。認定こども園で働く保育教諭もほぼ同水準です。

認定こども園は「保育士資格」と「幼稚園教諭免許状」の両方を持つ保育教諭が求められます。

そのため、これまでとは違った人材確保の課題があります。そこで設けられたのが「幼保特例制度」です。

この制度は、以下の人を対象に、最大8単位の特例科目を修得し保育士試験を経ることで、保育士資格を取得できるしくみ。

- 幼稚園教諭免許状を持っている
- 3年以上かつ4,320時間以上の実務経験を積んでいる

国は、両資格をもつ人材を増やすため、このような支援を整えています。

・認定こども園の園長年収や給料事情

認定こども園でキャリアアップを目指す方にとって、将来の給与水準も気になる場所ですね。

以下は保育園の参考データですが、認定こども園においても近い水準であることが多いです。

- 公立保育園の園長:約759万円
- 私立保育園の園長:約679万円

園長は施設運営の責任者として、経営管理・職員指導・保護者対応など幅広い業務を担っています。

また、主任保育士や副園長には、国の「処遇改善等加算」制度により、月額5,000円～4万円程度の手当が支給されることもあります。

3. 認定こども園とは？簡単に解説

ここからは、認定こども園ならではの魅力をわかりやすくご紹介します。

- ・認定こども園と保育園の違い
- ・認定こども園ってどんなところ？主な特徴
- ・認定こども園は4種類！管轄も知っておこう

一つずつ見ていきましょう。

・認定こども園と保育園の違い

認定こども園は、幼稚園と保育所のよいところを合わせた施設。待機児童の解消を目的として2006年に制度が始まりました。

幼稚園は教育中心、保育園は保育中心であるのに対し、認定こども園は両方を兼ね備えていて、教育と保育を一体的に行います。

また、地域の子育て支援の拠点としての役わりも担っているんです。

保護者の就労状況に関わらず利用でき、0歳から就学前までの子どもを受け入れています。

・認定こども園ってどんなところ？主な特徴

2024年時点で全国に10,483園が設置され、認定こども園は急速に広がっています。

認定こども園のおもな特徴は、「異年齢保育」です。

0歳から5歳までの子どもが日常的に交流するため、次のような環境が自然に作られていますよ。

- 年上の子が年下の子の面倒を見る「思いやりの心」が育つ
- 年下の子が年上の子に憧れを持つ気持ちが育まれる

保育士としては、年齢や発達段階に応じたスキルが身につくのが魅力。教育的要素と生活支援の両面を経験できるため、保育の幅も広がるでしょう。

・認定こども園は4種類！管轄も知っておこう

認定こども園は4タイプに分類され、それぞれに特色があります。

分類名	割合	特徴・ポイント	管轄(主な所管)
幼保連携型	約68%	・幼稚園と保育所の機能をあわせもつ ・国が推進し補助金が手厚い ・待遇面もメリットあり	こども家庭庁 (文部科学省や厚生労働省とも連携)
幼稚園型	約14%	幼稚園の教育機能が中心	文部科学省
保育所型	約17%	保育所の保育機能が中心	厚生労働省
地方裁量型	約1%	地方の事情に応じた独自の運営形態	地方自治体

なかでも幼保連携型が最も多いのは、国が推進している形だからです。補助金などの支援が手厚く、職員の待遇面でもメリットも大きくなっています。

また、幼保連携型では保育士資格と幼稚園教諭免許の両方が必要ですが、他のタイプでは、必要な資格が違ってきます。

どのタイプも、都道府県からの認可が必要です。

なお、幼保連携型の管轄はこども家庭庁(旧内閣府)ですが、文部科学省や厚生労働省とも連携しています。

4. 認定こども園と保育園、給料差はどのくらい？

認定こども園と保育園について、気になる給料の違いを具体的な数字で比べてみましょう。

- ・認定こども園・保育園・幼稚園の給料の差
- ・なぜ給料差がある？その理由

一つずつ解説します。

・認定こども園・保育園・幼稚園の給料の差

園の種類	公立(月給)	私立(月給)
認定こども園	約34.6万円	約33.2万円
保育園	約36.6万円	約34.8万円
幼稚園	約40.5万円	約33.5万円

注目すべきは、私立施設においては認定こども園・保育園・幼稚園の月給に大きな差がないことです。

実際、私立施設での月給は保育園が約34.8万円、認定こども園が約33.2万円、幼稚園が約33.5万円と、ほぼ同水準。

「認定こども園は給料が低いのでは？」と心配する必要はありません。安心してくださいね。

・なぜ給料差がある？その理由

保育士のお給料には、公立・私立、地域、園の特徴など、さまざまな理由で差が出ます。

公立の保育園は税金で運営され、地方公務員の給与体系にもとづくためお給料は安定しています。

一方、私立の保育園は園の運営状況によって収入が変わります。経営が安定している園では高めの給与が出ることもあれば、そうでない園では低くなることも。

地域差も大きく、たとえば東京都など保育士不足が深刻な都市部では、私立園も高い給与を示して人材確保に努めています。

さらに、園の規模や特色ある保育内容(英語教育やモンテッソーリなど)によって変わることも。求められるスキルが違うため、給与に差が出ることもあります。

5. 認定こども園と保育園、働いたらどっちがいい？

認定こども園ならではの魅力や特徴をわかりやすく紹介します。

- ・認定こども園で働くメリット・デメリット
- ・認定こども園に向いている人・向いてない人とは？

一つずつ丁寧に解説していきます。

・認定こども園で働くメリット・デメリット

「こども園で働くメリットは？」と疑問に思う人は多いようです。以下で、こども園で働くメリット・デメリットを3つずつ見ていきましょう。

- ・メリット1:教育と保育のプロになれる
- ・メリット2:0歳～5歳まで成長を見守れる
- ・メリット3:処遇改善で給料アップが期待できる
- ・デメリット1:業務範囲が広く覚えることが多い
- ・デメリット2:給料は保育園とあまり変わらない
- ・デメリット3:さまざまな保護者対応が必要

順に解説します。

・メリット1:教育と保育のプロになれる

認定こども園では、幼稚園の教育的な内容と、保育園の生活支援の両方を学べる環境が整っています。

幼稚園では、文字や数の学習、音楽活動、集団遊びや体操、社会性の育成、季節の行事などが中心です。

一方、保育園では食事や排泄の援助、午睡の見守り、身の回りの世話、安全管理、発達支援など生活面のサポートを行います。

こうした幅広い経験を積むことで、将来どちらの施設に転職しても対応できるスキルが身につきますよ。認定こども園の経験は、転職時の選択肢を広げる大きな強みとなるでしょう。

・メリット2: 0歳～5歳まで成長を見守れる

保育園では3歳で幼稚園に転園することが多く、子どもと離れる寂しさもあるでしょう。

しかし認定こども園では、乳児から幼児まで、一貫して子どもと関わられます。

たとえば、0歳でハイハイしていた子どもが、5歳で逆上がりができる瞬間。この日々の成長を、6年間じっくり見守ることができるのです。

多くの楽しさと大変さを味わう反面、多くの感動につながり深いやりがいも感じられます。

・メリット3: 処遇改善で給料アップが期待できる

国は保育士の待遇改善を重点的に進めています。

「処遇改善等加算制度」では、保育士としての経験年数、研修の受講状況によって手当が支給されます。

ケースバイケースですが、月額5,000円～4万円の収入アップが期待できるでしょう。

認定こども園も対象で、副主任やリーダーといった新しい役職も増え、昇進のチャンスも拡大していますよ。

・デメリット1: 業務範囲が広く覚えることが多い

認定こども園のデメリットのひとつは、業務範囲が広く覚えることが多い点です。

園では「幼稚園教育要領」と「保育所保育指針」の両方を考慮します。そして、午前中は教育的な活動、午後は自由遊びを取り入れるなど時間帯で保育内容を切り替えます。

また、1号～3号認定の異なる認定の子どもたちに合わせた柔軟な対応が必要です。

子どもの年齢や保護者の働き方によるわけ方

- 1号認定:
3歳～5歳が対象で教育目的、保護者が家庭で見られる場合が多いです。
- 2号認定:
共働き家庭などで保育が必要な3歳～5歳児が対象。長時間預かります。
- 3号認定:
0歳～2歳児が対象、保護者が働くなど家庭での保育が難しい子どもが対象です。

はじめは覚えることが多く大変ですが、多様な年齢の子どもへの対応力が身につくよい機会でもあります！

・デメリット2: 給料は保育園とあまり変わらない

認定こども園では、保育士資格と幼稚園教諭免許の両方を活かして働けます。

しかし、その分の「特別手当」が支給される園はまだ少なく、給料差も小さいです。

なぜなら「認定こども園」の制度自体がまだ新しく、人事制度や給与体系が十分に整っていない園が多いため。

ただし、将来的に転職やキャリアアップを考える場合はどうでしょう。

「保育園と幼稚園の両方での経験がある人材」は、幅広い施設で重宝され、高く評価されます。

そのため、今は給料に大きな差がなくても、キャリアの選択肢が広がるという大きなメリットがあります。

・デメリット3: さまざまな保護者対応が必要

認定こども園では、1号認定(専業主婦など)の保護者、2・3号認定(共働きなど)の保護者、いろいろな保護者と関わります。

たとえば運動会の準備で、1号認定の保護者は「衣装を手作りしたい」と考えています。一方、2・3号認定の保護者は「市販のもので済ませたい」と思うことも。

両者の希望に配慮した対応が、コミュニケーションの負担につながることもあります。

しかし「柔軟な対応力を身につけられる」と、ポジティブにとらえてみてください。

慣れないうちは戸惑いますが、先輩職員がしっかりサポートしますので安心してくださいね。

・認定こども園に向いている人・向いてない人とは？

認定こども園で働くうえで「自分は向いているのかな？」と悩む方も多いでしょう。ここでは、以下についてわかりやすく解説します。

- ・認定こども園に向いている人
- ・認定こども園に向いていない人

順に見ていきましょう。

・認定こども園に向いている人

認定こども園に向いている人は、以下のとおりです。

- 教育と保育の両方に興味がある人
- 子どもの成長を長期間見守りたい人
- 変化に柔軟に対応できる人

認定こども園は教育と保育を一体的に行う施設です。

新しいことを学ぶのが好きで、「今日はどんな発見があるかな？」と毎日をワクワク過ごせる人にぴったり。

幅広いスキルを身につけたい、新しい制度にも積極的に挑戦したい人は、認定こども園での仕事を楽しみながら成長できるでしょう。

・認定こども園に向いていない人

認定こども園に向いていない人は、以下の特徴があります。

- 特定の年齢に集中して働きたい人
- 業務をシンプルに整理したい人
- 変化より安定を好む人

たとえば「乳児保育だけに専念したい」「幼児教育だけを深めたい」などはっきりした希望がある場合です。その場合、保育園や幼稚園の方が専門性を活かしやすいことも。

しかし、認定こども園での経験は将来の財産になります。

保育士と幼稚園教諭の両方のスキルが身につく、将来的なキャリアの幅も広がるでしょう。

6. 認定こども園の給料・進学情報は「○○」！

認定こども園の給料事情が理解できたら「○○」で理想の園選びを始めましょう！

○○では認定こども園の詳しい情報を無料で集められ、給料や働き方のリアルな声も知れます。

就職フェアでは実際に働く先輩の話が聞けるので、職場の雰囲気もイメージしやすいです。

進学先の選び方～就職活動まで、一貫したサポートを受けられるのが魅力！ぜひ活用してみてくださいね。

5186字